

歩く会3月例会 赤雪山へ

3月の歩く会は足利最北部に位置する赤雪山(621m)に登りました。

今回の申込みは11名でしたが3名の都合が合わず欠席となり1名が現地集合、7名で2台の車に分乗し晴天の中、出発しました。8時20分発菱町経由で赤雪沢駐車場に8時50分着。準備をして9時5分に8名で登山口らしき所より出発しました。

歩き始めて沢の道に入るとそこは杉の倒木が横に倒れていました。その杉の木をまたぎ又はくぐってさながら障害物競争みたいな道を30分位登ってやっと杉林を抜けました。下山をしてわかった事なのですがその倒木は2014年の大雪で倒れて余りにも多いのでそのまま手が付かず状態でした。杉林が終わった所で休憩をして稜線までは30分位でした。そこからは頂上までは200~300mでしたが急登で思いのほか時間がかかりました。

10時30分頂上を出発し下山は登りのルートとは別のルートを選びその道は良く整備された道で1時間程で駐車場に着きました。帰路に車で10分程度の場所にあるそば処「十勝屋」に寄りました。評判の店らしく行列が出来ていました。15分程の待ちでしたが「そば」は評判通りで天ぷらも美味しかったです。皆様も時間があれば是非食べてみて下さい。13時に無事桐生倶楽部に着きました。

天候にも恵まれ満開の梅の花も観られ旨い「そば」にも出会いましたので良い山行の1日でした。(腰塚富夫 記)



3月月次会

笠原康利氏をお招きして

桐生市の将来を考えたとき、産業観光の推進は非常に重要な施策です。今月の月次会の講師は、衰退しているといわれる繊維産業にあって、刺繍アクセサリー000(トリプルオー)を開発、オープンファクトリーを展開し業績を上げている(株)笠原盛会長 笠原康利氏をお招きしてお話を伺いました。

少子高齢化が進行し消滅可能都市の桐生市は、女性が働ける職場づくりが重要である。桐生の特徴は、歴史のある織物の町、独自の技術を持つ企業が多い、新しい技術を取り入れ変化への対応、と説明。桐生の繊維の現状は、資材提供基地、素晴らしい素材でも桐生の名前が出ない、納入単価が抑えられているとし、稼げる製品づくり、つまり値段が高くとも良いとお客様に認めてもらえる製品が必要であり、今ある技術の延長線上にない製品開発が重要である。そうしたことを前提に、制作過程を公開し、製品のこだわりを理解してもらおう。消費者に製品を手にとってもらい、購入や意見を言ってもらおうこと、つまり「オープンファクトリー」を実施することにより、産業観光を進めることができるとした。自分の好きなものは、高価でも買う。ライフスタイルにこだわって商品を選ぶ。周りの人と違う個性的なものは選ばない。野村総合研究所(消費者意識)参照

その後オープンファクトリーの成功事例の燕三条「工場の祭典」を説明、また自身が手掛ける「笠原パーク」の概要を説明 桐生でも「オープンファクトリー」